

パネルディスカッション7：在宅医療における病院地域連携室の役割

-起点あるいはハブとして-

演題名	地域医療連携室の役割
-----	------------

概要

(はじめに) 当院は金沢市南部に位置する 300 床 (急性期 5 病棟、回復期 1 病棟) の地域中核病院であり、石川県がん診療連携推進病院、二次救急指定病院、災害拠点病院などの指定を受けている。そのような医療環境の中で当院の地域医療連携室 (医師 1 名 (兼任)、退院支援看護師 1 名、事務員 2 名) は医療社会事業部として訪問看護師、MSW と同じ部屋で業務を行っており、最近では前方支援ならびに後方支援の両方の業務が増え、言わば正面の総合受付とともに病院のもう一つの顔と言っても過言ではないと思われるが、その評価は十分に得られていないところもある。そこで今回はその役割について報告する。

(病病連携ならびに病診連携) 地域医療連携室の一番大きな役割であり、患者紹介ならびに転院などに関して院内外の事務的連絡・手続きを一手に引き受け、さらに高額医療機器の予約受付や検査の前処置などに関しての手配も行っている。また紹介状や返書などのチェック、処方内容の確認なども重要な役割であり、今後石川県で導入予定の情報連携システムの窓口も担うことになる。最近では施設との連携という意味で退院調整・支援のニーズが高くなり業務量は増す一方である。

(地域とのネットワーク) 地域のクリニックの先生方との勉強会の企画・運営や、市民公開講座の企画、地域の商店街の夏祭りと同時に開催する病院祭の窓口、ボランティアまた日本医療マネジメント学会石川県支部ならびに MSW とともに在宅医療のネットワーク (いしかわ 921 在宅ネットワーク) の事務局を勤めており、医療・福祉関係者のみならず住民に対しての窓口としての機能も必要となってきた。

(今後の課題) 1、連携室そのものの問題としては、業務量の増加に対するマンパワー不足が大きい。また所帯が小さいため、看護師等の人事異動によりパワーダウンすることは否めない。そのためできるだけ業務の簡略化ならびに IT 化を考慮するも、Face to Face が必要な点も多くジレンマが大きい。2、病院ごとに連携室の役割が異なっており、そのことが様々な弊害を引き起こすことがある。今後は連携室同士の情報交換を密に行ったりすることで、内からも外からも機能がわかりやすくすることが重要であると考えます。

(まとめ) 地域連携室の役割は今後ますます重要になると考えられ、さらなる業務の拡大ならびにクオリティの改善に努める必要がある。